



## TKK 共通シラバス

1. 科目名	構造材料施工				
2. 教員名	田村 雅紀	3. 担当大学	工学院大学		
4. 対象学年	3年	5. 開講時期	前期	6. 単位数	2単位

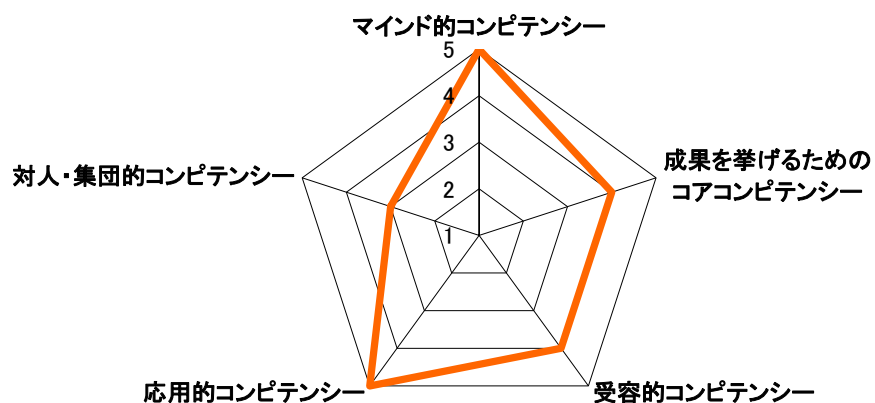
7. 授業の目的・到達目標（神）、授業のねらい及び具体的な達成目標（工）、授業の内容（基本的枠組）（東）※必須					
<p>建築物における「構造材料」とは、コンクリート系、金属系および木質系材料などで構成されています。つまり、人の体でいえば、「骨」や「筋肉」や「皮膚」の身体そのものを指しています。そして、建築物としてこの世に生まれる過程は、建築の作り手が、使い手の意思を理解した上で、設計・計画・工事・維持管理・解体・再資源化などの建築行為を通じ、最終的に土地に根付かせる「施工」という取り組みで行なわれます。本授業は、この一連の仕組みに関する基礎的な理解を得て、建築物を生み出すことの本質的意味が考察できるようになることを目標とします。</p>					
8. 授業のキーワード（神）					
環境問題、資源、素材、建築材料、構造材料、内外装材料、施工、品質、価値、ニーズ					
9. 授業の進め方（神）※必須					
<p>所定のテキストを使用し、教科書の各章冒頭に示されるキーワード部分をネット検索等により予習の上、授業に臨んでください。理解が深まります。教科書の1章を1回の講義で終える授業計画とし、習熟度を確保するためミニレポートを4回ほど提出してもらいます。その上で最終テストを行い、学習到達度の評価を行いません。</p>					
10. テキスト、参考書、指定図書（神）					
<p>テキスト「建築生産—ものづくりから見た建築のしくみ—」, ものづくり研究会, 彰国社, 2012          参考書「ベーシック建築材料」, 彰国社, 2010</p>					
11. 授業時間外に必要な学修（神）事前、事後に受講してほしい講義等（東）					
【事前受講してほしい講義等】【事後受講してほしい講義等】					
12. 提出課題など（神）					
4回程度のレポート					
13. 成績評価方法・基準（神）、成績評価方法及び水準（工）、評価の方法（東）※必須					
<p>講義に参加し、内容を理解することではじめて記述が可能となるミニ授業レポートが4回程度ある。換言すれば、授業をうけないと理解ができません。その積み重ねの上で、学期末に行なう最終テストの成績により評価します。</p>					
14. 履修するにあたって（神）、学生へのメッセージ（工）、受講生への要望（東）					
<p>人のからだは、様々な「器官、組織、細胞」により成り立っており、建築物のからだは、「構造体、部材、材料」により構成されている。材料を視点とし、構造体が形作られて、健全な状態を保つための基礎的な仕組みについて考える場としたい。</p>					
15. 参考（ホームページ（神）、オフィスアワー（工）等）					
<p>授業後2時間(月曜11~13時：工学院大学新宿校舎25階研究室に待機) またはその間にメール(masaki-t@cc.kogakuin.ac.jp)で相談してください</p>					

## 【授業計画（神）（東）、授業計画及び準備学習（工）】

講義番号	主題	内容
第1回	計画段階	建築というものづくり
第2回	計画段階	建築と法規
第3回	計画段階	建築と環境影響
第4回	計画段階	建築の企画・マネジメント
第5回	工事段階	建築の構工法
第6回	工事段階	建築の工事監理・BIM
第7回	工事段階	構造材料の選定と品質管理
第8回	工事段階	構造材料の施工計画
第9回	工事段階	地盤調査と基礎工事
第10回	工事段階	鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事
第11回	工事段階	建築の維持保全・補修補強・改修
第12回	保全段階	建築のアセットマネジメント
第13回	処理段階	建築の解体・廃棄
第14回	処理段階	次世代に向けた資源循環
第15回	学習成果の確認	試験

## 【コンピテンシー】

本講義を通して身につけることが期待されるコンピテンシーは、以下のグラフを目安にしてください。



コメント